

Ⅱ 5. 造成工事について（評価表1.（5）②）

各工事の契約日は以下のとおり。

造成工事（仮設）	平成 19 年 1 月 29 日
造成工事（一工区）	平成 19 年 3 月 14 日
基幹環境整備（トンネル・立坑）（その1）	平成 19 年 3 月 29 日

II 6. COP I, MACOの活動状況について（評価表2. (1) ①）

各回の参加者は以下のとおり。

	COPI	参加者	MACO	参加者
第6回	平成18年4月24日	7	平成18年4月24日	11
第7回	平成18年5月24日	9	平成18年5月24日	11
第8回	平成18年7月5日	10	平成18年9月22日	11
第9回	平成18年8月24日	10	平成18年12月12日	12
第10回	平成18年9月21日	10	平成19年2月19日	8
第11回	平成18年11月19日	13	/	/
第12回	平成18年12月12日	13		
第13回	平成19年1月19日	13		
第14回	平成19年2月19日	17		

各回の主な議題については以下のとおり。

COP I 主な議題		
第6回	平成18年4月24日	COPIの役割 P I・研究者の募集活動 霊長類脳研究の feasibility study
第7回	平成18年5月24日	IRP 予算について 霊長類脳研究の feasibility study アップデート OCNC アップデート P I・研究者の募集活動
第8回	平成18年7月5日	霊長類脳研究の feasibility study アップデート P Iの任命（時期、スペース等）
第9回	平成18年8月24日	研究スペース割り当て（現・新P I） P I・研究者の募集活動 霊長類脳研究のイメージングプロジェクト
第10回	平成18年9月21日	P I候補のアップデート 2009年までのP I採用ポリシー
第11回	平成18年11月19日	P I候補のアップデート 11月以降のワークショップ
第12回	平成18年12月12日	運営委員会レポート 新P Iの研究スペース割り当て P I候補のアップデート 2月以降のワークショップ
第13回	平成19年1月19日	F Y O 6研究予算 新P Iの研究スペース割り当て P I候補のアップデート 出張及びワークショップに関する規則等について
第14回	平成19年2月19日	F Y O 6研究予算 新P Iの研究スペース割り当て P I候補のアップデート

MACO 主な議題		
第6回	平成18年4月24日	財務の月次報告・年度予算
		施設工事に関する進捗レポート
		規則の改定
		開所式について
第7回	平成18年5月24日	財務の月次報告
		施設工事に関する進捗レポート
		開所式について
		運営委員会について
第8回	平成18年9月22日	財務の月次報告
		施設工事に関する進捗レポート
		F Y O 7 概算要求
		評価委員会の評価について
		職員の採用について
		規則の制定について
第9回	平成18年12月12日	財務の月次報告
		施設工事に関する進捗レポート
		予算の執行について
		研究ユニットの評価手続きについて
第10回	平成19年2月19日	財務の月次報告
		施設工事に関する進捗レポート
		規則の制定について
		F Y O 6 予算について
		組織規程のたたき台について
		F Y O 7 年度計画

Ⅱ 7. 規程の見直しについて（評価表2.（1）②）

規程数

53（平成19年7月時点）

見直しの規模

すべての規程類が対象

見直しの視点・考え方

関係法令との整合性等のコンプライアンス確保の観点から、監査法人が行うレビューの結果を踏まえて対応する。

Ⅱ 8. ラスパイレス指数について（評価表2.（1）②）

沖縄科学技術大学院大学設立構想は、沖縄において世界最高水準の研究及び教育を行う自然科学系の大学院大学を設立しようとするものである。同構想の推進を担う当機構職員の給与水準については、以下のような背景・理由により、日本の国家公務員と比較した場合の指数（ラスパイレス指数）は高くなっている。

1. 当機構は、設立時（平成 17 年 9 月）より、定常的な業務はアウトソースし、派遣職員や任期制職員の活用により組織をできるだけスリム化することとしてきた。このため、定年制職員については経験を有する基幹職員を中心に採用しており、適用号級が高くなった。なお、平成 18 年度については定年制職員を増員したが、非基幹職員の採用であったため、指数は前年度に比較し、6.5 ポイントの減となった。

（事務・技術部門における職員数）

平成 17 年度末：15 人（うち基幹職員 7 人）、任期制職員 10 人

平成 18 年度末：16 人（うち基幹職員 6 人）、任期制職員 15 人

2. 理事長及び運営委員会にはノーベル賞受賞者の外国人を迎えているほか、外国人研究者も多く採用していることから、当機構は、円滑なコミュニケーションによる業務遂行のために英語能力や情報処理能力等の高い者を採用している。このような優秀な人材を確保するためには、現給保証の観点から給与水準にも一定の配慮をする必要があった。
3. 給与水準に関して、他の研究・開発関連の独立行政法人の事務職の給与水準を参考に職員給与規程を策定しているが、沖縄という地理的な条件や、当機構の福利厚生制度の整備状況等を考慮し、基幹職員クラスを登用する場合、比較的高い給与レベルを設定しなければ優秀な人材の確保は困難である。
4. 特に、当機構では、前述の国際的水準の高度な専門能力が求められ、このような人材は必ずしも豊富ではないことを留意しておく必要がある。

（参考）ラスパイレス指数

平成 17 年度 151.8

平成 18 年度 145.3

Ⅱ 9. 事務職員の専門能力向上のための措置について（評価表2.（1）⑤）

時期	研修テーマ	主催者	対象者	参加者数
平成 18 年 4 月 11 日 9 月 22 日	科学研究費補助金	文部科学省	実務担当者	1 人
平成 18 年 5 月 8 日～ 6 月 1 日	プレゼンテーション 技術	機構	研究者	35 人
平成 18 年 6 月 14、22、 27 日	セクシャルハラスメ ント	機構	全職員	97 人
平成 18 年 9 月 26 日～ 29 日	知的所有権	独立行政法人工業 所有情報・研修館	実務担当者	2 人
平成 18 年 10 月 5 日～ 6 日	防火管理	沖縄防火設備促進 協会	実務担当者	1 人
平成 18 年 11 月 3 日	過労によるメンタル ヘルス	産業医学振興財団	実務担当者	1 人
平成 18 年 11 月 4 日	情報公開と個人情報 保護	関東管区行政評価 局	実務担当者	1 人
平成 19 年 1 月 26 日	人事の法務と実務	日本経済新聞	実務担当者	2 人
平成 19 年 1 月 29 日	情報公開と個人情報 保護	総務省	実務担当者	1 人
年間を通じて実施	日本語	機構	外国人研究 者等	13 人
平成 18 年 7 月 31 日～ 平成 19 年 1 月 31 日	英語	機構	事務職員及 び研究者等	62 人
平成 18 年 9 月 29 日 平成 19 年 1 月 30 日～ 31 日	経理業務	機構	実務担当者	25 人

研修は、次の2つのカテゴリに分かれる。

- 1) 複数の職員に対する一般研修
- 2) 特定のテーマに関する個別研修

1) の一般研修は、機構の研修担当が企画し、全職員又は特定の対象者に参加資格があるものである。平成 18 年度の例では、語学研修及びセクシャルハラスメント研修がこれに該当する。一般研修では、セクシャルハラスメント研修のように、全職員に出席を義務付ける場合もある。この場合は、複数の日程を組み、職員が日程を選択し受講する。

2) の特定のテーマに関する研修は、実務を担当している職員を指定し、又は職員から具体的要望があった場合に、専門知識を効率的に習得させるために受講させている。個別研修の具体的内容等については、ケースバイケースに検討されることになる。

II 10. 随意契約について（評価表3）

平成18年度においては、随意契約について、契約件数に占める割合は低下した。一方、契約金額に占める割合は増加しているが、これは前年度にない規模の2件の契約（①施設整備事業用地（民有地）取得業務委託契約〔627百万円〕、②メインキャンパス研究施設等実施設計業務委託契約〔510百万円〕）によるところが大きい。これらは以下の理由により随意契約としたものである。

これらを除けば、平成18年度の随意契約の契約金額は、前年度（7ヶ月）に比べ増加した建物賃借料等を含めても、83百万円減少している。

単位：千円

	17年度（7ヶ月）		18年度（12ヶ月）		増減額
	金額	件数	金額	件数	
随意契約計	591,294	26	1,645,072	26	1,053,778
（内訳）					
（施設整備事業用地取得業務委託）	—	—	（626,868）	（1）	（626,868）
（研究実験施設等実施設計業	—	—	（510,050）	（1）	（510,050）
（その他）	（591,294）	（26）	（508,154）	（24）	（▲83,140）

（参考）

① 施設整備事業用地（民有地）取得業務委託契約

本業務は、恩納村キャンパス予定地の民有地を取得するものであるが、沖縄科学技術研究基盤整備機構に用地取得業務に係る専門的知識を有する者が存在しないため、独自に本業務を行うことが不可能であることから、沖縄県内において本業務を受託出来る唯一の機関である「沖縄県土地開発公社」に委託したものである。

なお、627百万円は地権者に支払われる用地買収費であり、土地開発公社との実質的な契約金額は、事務費(消費税込)27百万円である。

② メインキャンパス研究施設等実施設計業務委託契約

本業務は、沖縄科学技術大学院大学のマスタープラン作成及び基本設計に引き続き、研究施設等の実施設計を行うものであり、マスタープランの作成及び基本設計業務において、公募型プロポーザル方式により公平公正に選定された業者（日建／コンバーク・アソシエイツ／国建 共同体）に委託したものである。

参考資料 ワークショップアンケート

国際ワークショップ「一分子解析」(受講生向けアンケート結果)

<応募のきっかけ>

かなりの受講生が他者からの推薦がきっかけで本ワークショップに応募している。また、ポスターがきっかけとなった者も多かった。

一方でNatureの広告がきっかけとなった者は少なかった(ただし、Natureをみた者が参加者に推薦した可能性はあるため、Nature広告の効果を否定するものではない)。

<レクチャーの内容>

基本的に全ての回答がポジティブな印象であった。

<時間>

長時間過ぎるという意見がかなり見られた。その一方で90分の割には講演者のトピックの選び方がうまく、あっという間であったという意見もある。

<ポスターセッションの内容>

ポジティブな意見がほとんどである。

<ポスターセッションの時間>

セッションの時間を夜ではなく午後にすべきという意見もある。
各セッションの前の説明時間(3分)が短すぎるという意見もある。
一方でセッションの長さ(3時間)が長すぎるという意見もある。

<エクスカージョンについて>

全般的にはポジティブな意見が多く、またもう少し長くてもよいという意見もある。

<宿泊・食事について>

ほとんど高評価である。ただし夕食の時間が短すぎるという意見が多少目立った。
昼食については今回はじめてケータリングのボックス形式にしたが、内容面でもうすこし改善の余地があるようである。

<その他コメント>

以下の要望があった

- ・ 講義ノート・プレゼン内容をCD等で渡して欲しい
- ・ コーヒーブレイクが足りない
- ・ ディスカッションの時間が足りない
- ・ 自由時間が足りない

<OISTに関して>

- ・ コンセプトにおおむね賛同する意見が多い
- ・ 沖縄という立地にやや不安を覚える声がある。

OCNC 2006 アンケート調査結果 (抜粋)

参加者用：回答数37人

1. コースの評価

講義

Good diverse/ range of lectures(6), Very good/ interesting(6), Learned a lot/ Valuable (5), Impressed by distinguished lecturers(4), Good/ Interesting(4), Excellent/ Great(3), Enjoyed a lot(2), High quality(2)

学生プロジェクト

Very interesting/Enjoyed/Good idea(11), Too much after 6-hour-lectures(3), Valuable/ Learned a lot(3), More information/ topics(discussion start) needed prior to the course(3), Preferred more interaction with group peers(3), Preferred more planned and better defined projects*(3), Good/ relevant(2), Good opportunity for interaction(2),

ポスタープレゼンテーション

Good introduction: helpful to know other students' work and background(13), Appropriate/Good(7), Excellent/Great(5), Well-structured/organized(3), Very interesting(3), High quality posters(2), Liked 2 minute introductions(2), Very good(2)

2. 将来のコースについての提案

同僚に来年のコースへの参加を勧めますか？

Absolutely/Definitely(22), Yes(13), Already did(3), Depends on the topic(2), Would like to apply again myself(2).

旅費が支給されず、宿泊のみ提供されるとしたら、応募しますか？

Yes(19), Yes- if I can find another source(6), I couldn't afford it(6), No(3), Yes- but not sure(2), Yes, if 50% would be covered(2), Difficult(2), Not yet decided(2), Probably.

コースの期間は、どれくらいが適当ですか？

Same(20), Three weeks(7), Longer(6), Same with 2 or more days off(5), Not shorter(4), Three weeks or longer trip is too long away from work(4), Two weeks for lectures and 1 week exclusively for project(3), Shorter(3), Longer with a bit less densely packed, Shorter:1 week, Less time for lectures and more for project, Another week for project.

トピックについての提案は？

Learning(2), Robotics(2), Artificial intelligence, Biophysics of Cognition, Complexity, Computational Neuroscience & Neuro-diseases, Computational neuroscience in the studies of consciousness and emotions, Computations of neural networks, Computational Vision, HH, integrate and fire, Large neural networks, Machine learning (reinforcement learning, parametric learning model, etc.), Mathematical modeling, Modelling on network level, Models of learning, MRI, Molecular mechanism of neurological diseases, Network theory, Neuroelectronics, Quadratic integrate and fire, Simulating systems (Genesis, Neuron etc.), Structure and function of Neural Networks, Synaptic plasticity, Different sensory modality

systems-questions and methodologies, More detailed on types of neuron models, More neuronal and system topics rather than molecular ones, "The cortex, what goal does it have, what algorithms does it use, how does it implement them (aiming a collaboration between high level modelling and cell biology)", "Elements of computer science for neuroscientis (containing some information on theory of computation and complexity, latest development in classical analysis of algorithms etc.)."

講師用：回答数10人

1. コースの評価

講義

Excellent.

- I was very interested in most of the lectures, although most of them were outside of my area of expertise. I think the 3 hour format is good - however, I would have speakers spend the first 1-1.5 hours on more general overviews before jumping into the cutting-edge research. Many speakers did this, but a lot did not.
- Very good mix of lecture topics and speakers; I certainly learned a lot over the two weeks, but at the same time, the program was fairly cohesive. Almost all the lectures were of exemplary quality.
- The standard of the lectures and lecturers were among the highest I have ever experience.
- All of them were very exciting, but a little too long for me to keep my concentration.

学生プロジェクト

- Impressed by the quality of the projects. It would be better if the course were a couple of days longer, and the students had 2-3 afternoons off to work on their projects.
- As a tutor, I felt a little unsure of what was expected in terms of preparatory work before the course, though once the course began in earnest, things seemed to fall into place. The initial few days seemed a bit disorganised (with respect to student projects). I'm not sure how to solve that, except perhaps by getting the tutors to meet and discuss the projects etc. the day before the beginning of the main course? The tutor presentations at the beginning were fairly badly repared, and that probably detracted from the first day a little.
- I think the equipment that was provided was more than adequate, as was the space etc.
- The time available for the project was quite modest. On the contrary the space and the computer setup were fine.
- It was a very good experience for me because I could discuss with many students whose backgrounds are completely different from mine. Ideally, we wished to spend more time on our project.
- all students had very nice and promising project to work on during the course.
- Topics: good, Time: good (if no thyphoon), Computers: good.
- We should have used the computation server. Simulation softwares should be installed before the course.
- Good, quality of the work varied widely, which I guess, reflected the previous knowledge the students had.

ポスター・プレゼンテーション

Excellent(2). Good(2), No problem, Very interesting, Very nice, Very well prepared and presented, More time needed(2), A little more time needed*(2).

2. 将来のコースについての提案**同僚に来年のコースへの参加を勧めますか？**

Yes, definitely/off course(7), Yes(2)

- Certainly (in fact; I'm thinking of applying as a student myself, if possible)

旅費が支給されず、宿泊のみ提供されるとしたら、応募しますか？

Yes(4), Yes-if the theme is attractive for me, Only if single room is provided, Depends if I get travel support from my lab then yes.

• I'm not sure; that would depend on my financial situation at the time. However, I think in general, that wouldn't be an issue. (I think my university provides travel support for such events.)

• Probably not, as the travel expenses are quite high to Okinawa and I could not exploit any assistance from my home institution.

コースの期間は、どれくらいが適当ですか？

Same(5), Shorter-about 10 days, 3 weeks but not shorter, 3 week, with the same amount of lectures and more time for student projects and discussions.

• Amount of material covered should be reduced somewhat; it was very difficult to maintain the intense pace throughout the entire two week period, and probably reduced the effectiveness of the course.

- A few days longer, but with one or two afternoons off to work on projects.
- A little more free time would have been appreciated.

トピックについての提案は？

Neuroeconomics(2), Adjacent disciplines(for instance theoretical computer science if the topic is "neural computation"), A general comp-neurosci intro lecture, Controlling brain-brain machine interface, Researchers in biophysics, Cover as many topics as possible (if time allows). Topics that span multiple levels of investigation from molecular to electrophysiology to behavior and imaging

- Interactions between organisms? - Neuroethics, though I'm not sure how that would fit into a computational course. Perhaps something on data processing techniques for EEG / fMRI / ...The brain as a dynamical system?
- "Dynamic Neurosciences", where the convergence of real-time algorithms and automatic control approaches might be exploited to perform complex "stimulus-response" paradigms, both in vivo and in vitro (e.g. dynamic-clamp or conductance-injection). In such a respect, Prof. Hugh Robinson, from Cambridge might be an excellent lecturer.